

女性宿泊客を意識した仕様も取り入れ、幅広い顧客層獲得へ

株式会社ホテルサンルート奈良 奈良県奈良市

ホテルサンルート奈良は、奈良市内のホテルとしては2番目に誕生。猿沢池や奈良公園に近いという立地を活かして業容を拡大。

今般、併設のレストランを全面改装するなど、女性宿泊客を意識した仕様も取り入れて、幅広い顧客層の取り込みを行っている。

会社概要



会社名：株式会社
ホテルサンルート奈良
所在地：奈良市高畑町 1110
電話：0742-22-5151
FAX：0742-27-3759
設立：1981年
代表者：代表取締役 中野 重宏
資本金：2,500万円
従業員：13名
事業内容：ホテル業

URL：<http://www.sunroute-nara.co.jp/>



奈良市で2番目のホテルとして誕生

株式会社ホテルサンルート奈良の開業は1981年3月である。今、そのホテルが建っている場所は、元は松竹系の映画館「尾花劇場」だった。

開業の頃の日本は、テレビの普及により映画業界が斜陽化してきた時代であった。また、映画館の建物自体も老朽化してきて、建て替えを迫られていた。そのうえ、向かいにあった奈良市役所もすでに現在の地（奈良市二条大路）へ移転していた。

このような状況の中で、中野重宏社長は「これからは映画館では採算がとれない。もはや他業種に変わる時期」と考え、自分の人生を賭けた転換を決断。そして、立地条件を考えると、新しい事業は宿泊業が最適だと結論を下した。さらに、当時近隣には旅館が多く存在したが、ホテルと名の付くものは1社しかなかったことから、旅館ではなくホテルだと判断した。この選択の正当性はその後、近隣には次々とホテルが誕生していったことから証明されよう。

ただ、ホテル経営に全く素人であったため経営ノウハウを持たない中野社長は、サンルートチェーンに加盟することにした。

開業後、大手旅行代理店との契約も順調に進み、旅行パンフレットにも掲載してもらえるようになった。

2005年6～7月には地下レストランを全面改装。同8月には「なら燈花会」の開催と相まって、さっそく改装の効果が現れた。例年ではお盆を過ぎるとどちらかというと減少する観光客数も今年は比較的堅調だったという。

同ホテルでの宿泊客の割合は修学旅行を含む観光客が7割、ビジネス客は3割。当初は近隣の同業者との申し合わせにより修学旅行は受け入れてなかった。しかし修学旅行生のニーズが変化し“ホテルに泊まりたい”に変わってきた。そこで同ホテルでもここ10年ほど力を入れてきた。

「修学旅行は確実に毎年ある程度の数が見込めること、採算性が良いことから今後も力を入れていきたい。一方で修学旅行は時期が偏るため、個人客の取り込みも並行して行いたい」（中野社長）。

レストランを全面改装

開業時にはフランス料理のレストランを併設していた。「ホテルには洋食（フランス料理）があって当たり前だと思っていました」（中野社長）。しかし、宿泊客のニーズは洋食よりも和食だった。さらに周辺の飲食店は、男性向きや会社接待向きの店が多いことがわかった。ひどいものになると冷凍食品を多く扱う店も。これでは観光客は十分に満足できない。そこで新レストランは和風にし、女性向きの店作りやサービスに重点を置いた。

また、宿泊客に50～60歳層が特に多いことから、“落ち着いた奈良を見てそしてゆっくりと食事を食べたい”というニーズに応じて、洋風から和風へとジャンルを大きく変更した。そして、尾花劇場の名を復活させ新レストランのネーミングは「おばな」とした。

サンルートでは加盟ホテルでのお客様アンケートを実施しており、アンケート調査に基づき各ホテルのフロント・客室・レストランの各部門を、サンルートの厳しい評価基準にもとづき評価している。インターネット上で公開しているこのアンケート結果をみると、同ホテルではレストラン部門で最高の評価を得ている。



「おばな」の店内と料理の一部

細やかな配慮とさらなる展開

同ホテルでは創業当時から「女性一人でも安心

して泊まれるホテル」をキャッチコピーとしていた。今は常識となった感がある禁煙ルームも女性への配慮から比較的早くに採用していた。

今もその流れは受け継がれている。レストラン「おばな」での食器はできるだけ女性に好まれるものを採用している。

一方、客室に入ると、普通は薄暗い客室が、蛍光灯の採用によって明るくしてあったり、時計もお決まりのベッド脇のデジタル時計ではなく、アナログの時計が壁に掛かってあったりする。ホテルにしては珍しいが、これは宿泊客の多い女性層や50～60歳層へ配慮してのものだ。



細やかな配慮がなされた客室

今や宿泊客のニーズは多様化し、価格競争も激しくなっている。業界では常に新しい付加価値を付けていかなければ生き残れない時代に入っている。また、季節変動が大きい業界であり、当然のことながらオフシーズン対策も必要である。

ただ、「オフシーズン対策は1社で頑張ってもなかなか困難である。地域あげて、官民一体となって取り組まないと奈良の将来はない。」と語る中野社長。なら燈花会など奈良の地域のイベントとタイアップした宿泊プランもどんどん取り入れている。

今社長は、奈良の業界で「No.1のトイレづくり」を目指しているのだという。宿泊客への細やかな配慮と新しいアイデアで、幅広い顧客層に受け入れられるホテルとして、ホテルサンルート奈良の今後が期待される。（丸尾、井阪）